

# コロナ禍において「必要」から生まれた医療の形 Jamf ProとAppleデバイスが実現する非対面診療

東京都立 多摩総合医療センター様  
Appleデバイス管理ソリューション Jamf Pro導入事例



多摩総合医療センターは、東京都府中市にある第三次医療機関です。病床数は789床、幅広い診療科を持ち公的病院として多摩地域の中核病院の役割を担っています。東京都設置の公的医療機関であり、診療内容はほぼすべての領域を網羅、難病と急性期の患者さんの医療ケアを中心とし、救急と紹介状を持つ患者さんが受診されています。

昨今のコロナ禍においても、公的医療機関として病床整備を行い、特に重症患者さんを中心に多くの新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れている状況の中、主にiPadを使用した非対面診療を実現すべく、Apple専用の統合デバイス管理ソリューション「Jamf Pro」をご導入いただきました。

事務局の庶務課企画担当に所属し、院内ICT関係に関わる導入・運用におけるすべての調整をご担当されている稲邊さんと、感染症医として働きながらシステム管理室長を兼務し、Apple社との調整や現場調整などを総合的にマネジメントされている田頭先生にお話を伺いました。

## コロナで喫緊の課題となった非対面医療の実現

### ●とにかく足りない物資と医療従事者の感染対策が課題に

田頭先生：当院では新型コロナウイルス感染症の患者さんのケア自体は内科の先生が主治医として担当されていますが、私は感染症科医として、重症患者さんの治療・マネジメントについてコンサルタントとして併診したり、さらに院内の感染対策の仕事を行っています。また、システム管理室長という形で、現場の声を聴きながら院内のシステムの調整・提案を行う立場でもあります。

新型コロナウイルス感染症の流行で、医療現場はこれまでにない負担を強いられることとなりました。マスクだけでは感染対策が十分ではなく、そのマスクを含めて个人防护具やフェイスシールドといった物資も極めて不足し、スタッフの負担は増大、疲弊はピークに達していました。

そのような状況の中で、確実に診療を行い、スタッフの安全も確保するというのが喫緊の課題となりました。その課題を解決するため、非接触型・非対面型の診療を実現する切り札として、FaceTimeを利用できるiPadの大規模導入と、それらを一括で管理するMDMの選定は自然と生まれてきたニーズでした。

### ●iPadの大規模導入にあたってMDMは必須、「Jamf Pro」を導入

稲邊さん：iPhoneは数台導入しており、iPadなども個々の先生が使用しているという状況でした。病院単位としては

大規模導入はなく、このiPad大規模導入にあたって一元管理は必須で、MDMは絶対必要と認識していました。

iPhoneの管理マネージャは使用していましたが、使いづらいものだったため懸念していたのですが、紹介があり「Jamf Pro」も導入することにしました。

#### ●わかりやすい説明と直感的操作で導入はスムーズに

稲邊さん:Jamf Proの導入後、最初にご説明してもらい、2回ぐらいで研修は済みました。Jamf Proは画面が特に見やすく、1時間程度の説明ですぐどう使えばいいのかがわかりました。

もともとApple製品にはそれほど慣れておらず、最初は拒否反応も少しありました。しかし、Jamf Proはビジュアルが良いといいますか、直感的に操作できたので、すぐに慣れることができました。

#### ●非接触コミュニケーションの実現は家族の安全も守る

田頭先生:iPadは問診ツールとして想定通りの活躍をしてくれています。患者さんには実際に病院には来ていただいているのですが、iPadを使った非接触での問診をすることで接触回数を減らし、個人防護具も節約できます。これまでの非接触診療と言えば、電話などの音声通話によるものがメインでしたが、FaceTimeで視覚的な要素が加わり、患者さんの表情や様子で視診できるようになったのは大きいといえます。

また、新型コロナウイルス感染症の患者さんのご家族との面会にもiPadは大きく役立っています。入院された患者さんのご家族は自宅待機になってしまいますが、電話の声だけでは患者さんの本当の様子はわかりません。「見れる」状況を作ることによって、患者さんとその家族に安心感を与えることができます。特に重症患者さんは喋れませんので、見える情報はより大事なんです。

細かいところですが、防水ですし表面が拭きやすいというのもiPadの便利なところですね。様々な人が操作する以上、iPad自体も清潔に保つことが必要ですから。

## 「可視化」で実現する兼業システムスタッフの負担軽減

#### ●Jamf Proのダッシュボードやデバイス一覧で「可視化」が可能

稲邊さん:各端末は一定の頻度で見に行くのですが、特にWifiタイプの接続状況などが手元でぱっと見で分かるのはとても助かります。今のところはトラブルは発生していないのですが、何かあればすぐわかって対応できるのが安心できます。





用途変更によるデバイス再設定がスムーズに行えるのも大変便利です。患者さんのところに置く予定だったiPadを、調達状況の関係でスタッフ側に渡すことになった、という状況でも素早く設定変更が行えます。

また、感染エリア内に設置したiPadを遠隔で設定変更が行えるため、Jamf Proも非接触コミュニケーションを実現してくれている状況です。

### ●院内のシステム系スタッフの負担をJamf Proが大幅に軽減

稲邊さん：動画でマニュアルを作成できるので、患者さんやスタッフへの操作説明も、ほとんど接触することなく行えるのもiPadの魅力ですね。

ホーム画面のアプリの配置も余計な機能は外してシンプルな形にしておけるので、初めて触る方も迷うことなく利用できます。そういった設定をJamf Proから一斉に簡単に行えるので、手間が省けるというのは助かります。

大学病院のようなところ以外の医療機関の多くがそうなのですが、院内にはシステム関連のスタッフが少なく、少ないスタッフの負担軽減はJamf ProのようなMDMなくしてはなしえないことだと思います。

私も本来の業務は庶務でして、システム部門は兼務することが多いのが現状です。兼務でもスムーズに進められる。やはりMDMでの管理が便利かつ安心ですね。

### ●田頭先生の考える医療界が抱える課題

田頭先生：医療現場の現状は、書類作業が非常に多くなっています。当院でも開設当初から電子カルテ等の導入を進めてはいますが、相変わらず手術の同意書などの捺印が必要であったり、それらの紙文書の保存義務が大きな負担となっています。そういったもののペーパーレス化の推進が今後の課題と考えています。

また、医療現場では多職種でのチーム医療が増加しており、情報共有ツールとしての活用にも大きく期待しています。高齢化とともに一人の医師、一人の看護師では解決できない状況が増えています。iPadを持ってるスタッフは多いのですが、管理は十分にできていません。個人情報の厳格な管理も求められていますので、安全な運用を考えれば、Jamf ProのようなMDMは今後ますます必要になってくるのではないのでしょうか。

私は長らくMacも使っていてAppleデバイスにも慣れ親しんでいます。医療従事者には、当院が実現したようなiPadの大規模導入やMDMによる一元管理の便利さを知らない人が多いとも感じています。

Jamfさんも今後とも医療界に情報発信を続けていただいで、他職種、あるいは医療機関同士の連携の実現に貢献していただくことを期待しています。